

平成24年度文学研究科共同研究 研究成果報告書

申請者氏名	市 大樹
-------	------

研究課題名	日本古代文物を対象とした日本史学・美術史学・考古学の領域横断的研究
-------	-----------------------------------

研究組織

氏名	所属機関・部局・職名	専門分野
市 大樹	文学研究科・准教授	日本古代史
藤岡 穰	文学研究科・教授	東洋美術史
高橋照彦	文学研究科・准教授	考古学
中久保辰夫	文学研究科・助教	考古学
浅湫 毅	京都国立博物館・学芸部・主席研究員	東洋美術史
柳沢菜々	文学研究科・博士後期課程3年	日本古代史
橘 泉	文学研究科・博士前期課程1年	考古学
李 鎮栄	文学研究科・博士後期課程1年	東洋美術史
鏡山智子	文学研究科・博士前期課程2年	東洋美術史
国土仁風	文学研究科・博士前期課程2年	日本古代史
内田敦士	文学研究科・大学院科目等履修生	日本古代史

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究の目的・計画

〈研究目的〉日本史学・美術史学・考古学という異なる領域の研究者が、日本に現存する古代文物を対象に、共同で調査・研究をおこなう場を設けることによって、本学における研究・教育の活性化をめざすとともに、新規科学研究費を獲得するための体制づくりを構築することを目的とする。

〈研究計画〉共同調査・研究の場を設定することを主眼に、次の4点を中心に取り組む。

1、月例会の開催 領域横断的な合同勉強会を原則として毎月1回開催し、下記4の調査に向けた事前検討会を実施するとともに、大学院生・学部生などの研究発表会をおこなう機会を設ける。

2、特別例会の開催 第一線で活躍する外部の研究者を招聘し、特別例会を実施し、最新の研究成果を吸収し、領域横断的な研究をさらに発展させるための方法論などを議論する。

3、京都国立博物館での文物の調査 京都国立博物館で開催される特別展「大出雲展」にあわせ、当館の浅湫毅研究員の強力を得て、古代出雲関係文物の現物調査をおこなう。

4、出雲地域（島根県）の現地調査 上記3の古代出雲関係文物が、いかなる歴史的環境のもと、それが現在に伝来するにいたったのかを、現地調査する。現地の第一線で活躍された研究者の強力を得て、最新の研究成果を吸収するとともに、相互に意見交換をおこなう。

研究成果

1、合同勉強会の開催

日本史学・美術史学・考古学の領域横断的な研究を進めることを目的とした合同勉強会等を7回実施した（研究発表③参照）。出雲地域（島根県）の現地調査のための事前勉強会、最新発掘調査成果の報告会、卒論に向けての準備会、発掘現場の現地見学など、多彩な内容で構成することができた。それぞれの専門領域を越えて議論し、今何が問題となっているのかを認識できた点は有意義であった。大阪大学では以上の3分野にまたがる共通の授業科目は開講されていないだけに、領域横断的な研究を進めていくための基盤をつくったことは、大きな成果としてあげられよう。

2、特別研究会の開催

2013年3月6日、科学研究費助成研究・基盤研究（B）「日本古代宮都周辺域における手工業生産の分野横断的比較研究」（研究代表者：高橋照彦 課題番号：24320156）と合同で、日本古代史・美術史・考古学の各分野における研究者による特別研究会を開催した。藤岡穰（東洋美術史）、奥村茂樹（考古学）、吉川真司（日本古代史）の3氏による報告があり（研究発表③参照）、活発な議論をすることができた。通常の研究メンバーのみならず、他機関からも他分野にわたる研究者の参加者が多数あり、活発な意見交換ができた。報告会の終了後、情報交換会を催すことができ、それぞれの専門分野をこえて、多くの研究者と知り合い、今後さまざまな共同研究を実施していく上での基盤づくりもできた。

3、京都国立博物館での文物の調査の実施－「大出雲展」の見学

2012年7月30日、京都国立博物館で開催中の「大出雲展」を見学した。共同研究者である京都国立博物館研究員の浅湫毅氏のご厚意により、閉館日であるにもかかわらず、共同研究の参加者を対象として会場見学を認めていただき、浅湫氏および島根県立古代出雲歴史博物館の学芸員の方の解説を手がかりに、出雲地方の古墳等からの出土品、出雲国風土記や出雲大社に関わる史料、出雲地方に伝わる仏像や神像などの展示品をじっくりと見学・調査できた。通常の見学では使用できないライトの使用もご許可いただいたお蔭で、細部の観察ができたのは得難い体験であった。さまざまな文物を、それぞれの専門分野の教員・研究員・院生・学生がじっくりと観察し、実物に即しながら意見を交わすことによって、各研究分野の到達点・方法論を確認することができた点は、領域横断的な研究を進めていくための基盤づくりの第一歩として、貴重な成果であったと考える。

3、出雲地域（島根県）の現地調査の実施

11月10日（土） まず出雲大社を訪れ、本殿改修工事（平成の式年遷宮）のなか、神体が遷されている仮殿で参拝をした。参拝後、宮司の案内を得て八足門中まで入り、改修中の本殿を見学した。特別に玉垣の内まで進むことを認められ、本殿を間近に観察することができた。その後、本殿の裏手に回り、素鷲社を見学した。また、2000年調査で発見された古代出雲大社本殿の宇豆柱跡が境内床面に図示されており、現在の本殿との位置関係を確認できた。九つの柱跡のうち、本殿正面中央の柱および背面中央の柱が左右の柱と同一直線上に並ばない様子が

明瞭に見てとれた。ついで、出雲大社境内から北島国造館前を歩いて、徒歩で古代出雲歴史博物館へと移動した。同館学芸員平石充氏の案内を得て、常設展の見学をおこなった。古代出雲大社の推定復元模型をはじめ、出雲大社に関わる資料、県内の考古遺物などを中心に、展示の意図等もあわせて詳しく解説をしていただいた。その後、古代出雲歴史博物館関係者をまじえて、情報交換会・懇親会をおこなった。

11月11日(日) まず鰐淵寺を訪れ、住職より寺史の説明を受けた後、根本堂などの堂宇を巡り、浮浪の滝および蔵王宝屈を見学した。その後、大寺薬師(万福寺)へ移動し、木造薬師如来坐像、日光・月光菩薩像、木造観世音菩薩立像、木造四天王立像等を実見調査した。神社遺跡として名高い青木遺跡にも足を運び、遺跡を見学した。つづいて、西谷墳墓群史跡公園へ向かい、復元された四隅突出型墳丘墓の2号墓に登頂、その形状の特異さや大きさを実感した。復元2号墓内に設けられた展示室を見学した後、隣接する出雲弥生の森博物館に移動して館内展示の見学を実施した。同館の花谷浩・高橋周氏から詳細な解説をいただき、出雲地域の考古遺物の特徴について知見を深めることができた。その後、荒神谷遺跡へと移動し、荒神谷博物館で同遺跡の展示を見学した。野外の遺構展示は急斜面に位置し、遺構脇の斜面中腹に設けられた展望台から見下ろす格好となっている。出土青銅器の埋納状況が復元されており、その特異性がよく理解できた。最後に出雲玉作史跡公園へ向かい、松江市立出雲玉作資料館で玉造地域を中心とした古代の手工業遺跡、玉作りの技術に関する展示を見学した。野外には出雲玉作史跡公園として古代の玉作り工房跡が復元展示されており、それらもあわせて見学した。

11月12日(月) まず、県立八雲立つ風土記の展示学習館に立ち寄って、古代の意宇地域の基礎的な研究成果を学習した。その後、風土記の丘周辺史跡のフィールドワークを実施し、岡田山1号墳、山代郷正倉跡、山代郷南新造院(四王寺)、真名井神社、出雲国府跡、出雲国分寺跡の順に歩いた。真名井神社から東南方向に広がる田園地帯には、古代条里の痕跡がよく残されていた。国府跡では、後方官衙と考えられている遺構の柱跡や区画が、立柱や溝によって示されており、国府の施設規模がよくわかった。現地を実際に歩くことで、『出雲国風土記』の世界を体感できた。つづいて、松江市街の県立埋蔵文化財調査センターへ向かい、近接する古墳の丘古曾志公園を散策した後、平石充氏の解説を得て、青木遺跡出土木簡・墨書土器等の実見調査をおこなった。保存処理の施された木簡を中心に、実際の出土文字資料を間近で観察することができ、貴重な体験となった。最後は安来市の清水寺を訪れ、木造阿弥陀如来像を中心とする収蔵品を実見調査し、出雲東部に伝わる仏像の作例を観察できた。

以上、3日間という限られた日程であったが、数多くの史跡や遺跡を訪れ、さまざまな文物を観察・調査する機会をもつことができた。各機関からは特別なお配慮をいただき、現地調査をスムーズに進めることができた点は、衷心より感謝申し上げたい。島根県内の第一線の研究者から、最新の研究成果をご教示いただき、意見交換できた点も大変に有意義なものであった。

5、2013年度新規科研費の獲得

藤岡穰が「5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」(基盤研究A、2013～2016年度)、市大樹が「東アジアのなかの日本古代文書論の再構築」(基盤研究C、2013～2016年度)にそれぞれ代表として応募し、無事採択された。今回の共同研究の成果を、これらの新規研究に有機的につなげ、発展させていく所存である。

研究発表 [①論文・書籍、②口頭発表、③研究会開催、④その他に分けて記入してください。]

① 論文・書籍

- 市大樹・藤岡穰・高橋照彦・中久保辰夫・浅湫毅・柳沢菜々・橘泉・李鎮栄・鏡山智子・国土
仁風・内田敦士『日本古代文物を対象とした日本史学・美術史学・考古学の領域横断的研究
成果報告書』大阪大学大学院文学研究科日本史研究室、2013年、総90頁
- 市大樹「平城宮木簡にみえる古代の色」丸山伸彦編『日本史色彩事典』吉川弘文館、2012年、
247-249頁
- 市大樹『飛鳥の木簡—古代史の新たな解明—』中央公論新社、2012年 総303頁
- 市大樹「御食国志摩の荷札と大伴家持の作歌」『万葉集研究』第33集、2012年、207-260頁
- 市大樹「書評 犬飼隆著『木簡による日本語書記史【2011増訂版】』」『木簡研究』第34号、
2012年、225-234頁
- 市大樹「国分寺と木簡」須田勉・佐藤信編『国分寺の創建—組織・技術編—』吉川弘文館、2013
年、167-187頁
- 市大樹「東大寺領猪名荘とその絵図」『つどい』第304号、2013年、1-6頁
- 藤岡穰「興福寺南円堂四天王像の再検討—新たな運慶イメージの構築—」『フィロカリア』第
30号、2013年、95-139頁
- 藤岡穰「様式からみた新薬師寺薬師如来像」林温編『様式論—スタイルとモードの分析〈仏教
美術論集1〉』竹林舎、2012年、32-55頁
- 高橋照彦「書評 栄原永遠男著『日本古代銭貨研究』」『市大日本史』第15号、2012年、190
-197頁
- 高橋照彦「唐代の琵琶とその遡源」『待兼山論叢』第46号史学篇、2012年、1-26頁
- 高橋照彦ほか「遼寧省唐墓出土文物的調査与朝陽出土三彩枕的研究」遼寧省文物考古研究所・
日本奈良文化財研究所編著『朝陽隋唐墓葬発現与研究』、科学出版社、2012年、221-242
頁（中国文）
- 高橋照彦ほか「仏教の流入と古墳文化」『古墳時代の考古学 7内外の交流と時代の潮流』同
成社、2012年、183-197頁
- 高橋照彦ほか「古代・中世の酒杯」『ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大
阪高等工業学校醸造科—』大阪大学出版会、2012年、43頁
- 高橋照彦ほか「飛鳥・奈良・平安時代の遺跡」ほか『図説京丹後市の歴史～日本の「ものづく
りのふるさと」京丹後市～ 京丹後市史本文編』京丹後市史編さん委員会、2012年、44・
47-48・53頁
- 高橋照彦ほか『日本古墳文化研究の国際化に向けて—日欧ワークショップおよびフィールド調
査による古墳文化研究の国際化推進事業—』大阪大学大学院文学研究科考古学研究室、
2012年、総70頁
- 中久保辰夫「渡来人がもたらした新技術」『古墳時代の考古学7 内外の交流と時代の潮流』
同成社、2012年、159-169頁
- 中久保辰夫「渡来文化受容の二波 —古墳時代中期の北河内を中心として—」『韓式系土器研
究』XII、2012年、11-28頁
- 中久保辰夫「古墳時代前半期の撰津と播磨」『前期古墳からみた播磨』第13回播磨考古学研究

集会実行委員会、2013年、15-29頁

中久保辰夫「古墳時代前期～中期の九州出土朝鮮半島系土器と対外交渉」『第15回九州前方後円墳研究会北九州大会発表要旨・資料集 沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉』九州前方後円墳研究会、2012年、123-139頁

中久保辰夫「河内地域」『古代学研究会2012年度拡大例会シンポジウム資料集 集落から探る古墳時代中期の地域社会 一渡来文化の受容と手工業生産一』古代学研究会、2012年、23-38頁

中野咲・中久保辰夫「韓半島系土器のあり方からみた集落分類」『古代学研究会2012年度拡大例会シンポジウム資料集 集落から探る古墳時代中期の地域社会 一渡来文化の受容と手工業生産一』古代学研究会、2012年、3-6頁

橘泉「博物館展示と町並み保存」『日本古墳文化研究の国際化に向けて—日欧ワークショップおよびフィールド調査による古墳文化研究の国際化推進事業—』大阪大学大学院文学研究科考古学研究室、2012年、68頁

橘泉「発掘調査は語る (2)小さなカケラを追い求めて—墳頂部上面の調査—」『野中古墳と古市古墳群』文化庁/文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業、大阪大学大学院文学研究科、2013年、5頁

内田敦士「景雲一切経の写経・勘経事業と称徳・道鏡政権」『続日本紀研究』第399号、2012年、1-18頁

② 口頭発表

市大樹「飛鳥の木簡を読む」三輪山セミナー、2012年9月16日、大神神社

市大樹「聖武天皇の東国行幸」木津川市ふれあい文化講座、2012年9月23日、木津川市中央交流会館いずみホール

市大樹「都の中の文字文化」国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」、2012年12月15日、イイノホール

市大樹「奈良・平安時代の摂津—摂津職河辺郡猪名所地図から—」豊中歴史同好会2月例会、2013年2月9日、豊中市立蜷池公民館

藤岡穰「東アジアにおける金銅仏の伝播と観松院菩薩半跏像」第5回百済文化シンポジウム、2012年12月15日、奈良教育大学大会議室

田中由理・高橋照彦「平安期緑釉陶器の色彩学的検討—機械計測と目視同定—」一般社団法人日本考古学協会第78回総会、2012年5月26日、立正大学（『研究発表要旨』50・51頁）

高橋照彦・中久保辰夫「考古学からみた王宮・王陵と地域社会」日本史研究会古代史部会、2012年9月17日、機関誌会館

高橋照彦・中久保辰夫「大谷3号窯の発掘調査と篠窯跡群」「丹波・篠窯跡群の最新成果—分布調査と発掘調査—」検討会、2012年10月25日、立命館大学アート・リサーチセンター

高橋照彦「丹波・長門周防の緑釉陶器」2012年11月13日、奈良文化財研究所研修（陶磁器調査過程）、奈良文化財研究所飛鳥藤原宮調査部

高橋照彦「丹波篠窯跡群大谷3号窯の発掘調査とその成果」平成24年度考古学談話会大会、

2012年11月17日、京都大学文学部

- 高橋照彦「北東北における緑釉陶器出土のあり方」六ヶ所村歴史フォーラム2012、六ヶ所村「尾駱の牧」歴史研究会、2012年12月2日、六ヶ所村文化交流プラザ・スワニー、
- 高橋照彦「中心周辺関係からみた律令期と古墳期」「21世紀初頭における古墳時代歴史像の総括的提示とその国際発信」研究集会、2012年12月16日、大阪大学
- 高橋照彦「古代における新銭の発行契機について」出土銭貨研究会「2013年出土銭貨報告会」出土銭貨研究会、2013年2月2日、尼崎市立小田公民館
- 高橋照彦「興福寺を読み解く」平成24年度懐徳堂古典講座（集中コース）「遺跡を読み解く - 古代寺院の考古学 -」、2012年7月22日、大阪大学中之島センター
- 高橋照彦「東大寺を読み解く」平成24年度懐徳堂古典講座（集中コース）「遺跡を読み解く - 古代寺院の考古学 -」、2012年7月29日、大阪大学中之島センター
- 高橋照彦「馬場南遺跡を読み解く」平成24年度懐徳堂古典講座（集中コース）「遺跡を読み解く - 古代寺院の考古学 -」、2012年8月5日大阪大学中之島センター
- 中久保辰夫・酒井将史・森暢郎「選別と廃棄過程からみる平安時代窯業生産の特質」日本考古学協会 第78回（2012年度）研究発表会、2012年5月27日、立正大学
- 中久保辰夫「ハソウの共有と渡来人の系譜」韓式系土器研究会例会、2012年6月3日、大阪市
- 中久保辰夫「古墳時代前期～中期の九州出土朝鮮半島系土器と対外交渉」第15回九州前方後円墳研究会北九州大会、九州前方後円墳研究会、2012年6月16日、福岡・北九州市立いのちのたび博物館
- NAKAKUBO Tatsuo, "Two types of intercultural interactions in the development of the Yamato government", Workshop on Current Research on the Archaeology of the Kofun period in an international perspective, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, Nowrich, UK, July 17, 2012
- 高橋照彦・中久保辰夫「考古学からみた王宮・王陵と地域社会」日本史研究会古代史部会、2012年9月17日、機関誌会館
- 中久保辰夫「河内地域」古代学研究会2012年度拡大例会シンポジウム、2012年12月9日、大阪歴史博物館
- 中久保辰夫「渡来文化受容にみる中心周辺関係」科学研究費基盤（A）「21世紀初頭における古墳時代像の総括的提示とその国際発信」研究集会、2012年12月15日、大阪大学
- 中久保辰夫「考古学からみた4・5世紀の播磨とヤマト政権」豊中歴史同好会8月例会、2012年8月4日、ルシオーレ6階教育センター
- 中久保辰夫「倭王権の交易」朝日カルチャーセンター、2013年1月22日、朝日カルチャーセンター芦屋教室
- 李鎮栄「統一新羅時代の十二神将像—東アジアにおける十二神将像の研究の一環として」第58回国際東方学者会議、2013年5月24日、日本教育会館
- 鏡山智子「法輪寺の薬師如来像と伝虚空蔵菩薩像について」第66回美術史学会全国大会、2013年5月12日、関西大学

Mai KAMIJI・Izumi TACHIBANA 「Examples and Methods in Researching Ruling

Lineages in the Kofun Period: A Case Study of the Inagawa Region」, ”Workshop on Current Research on the Archaeology of the Kofun period in an international perspective” Poster Presentation , UK , July 17 2012

③ 研究会等の開催

《合同勉強会》 5 以外は大阪大学大学院文学研究科 465 教室

- 1、2012 年 9 月 26 日 鏡山智子「鰐淵寺銅造観音菩薩立像について」
内田敦士「出雲地域の宗教と社会」
- 2、2012 年 10 月 10 日 中久保辰夫「大谷 3 号窯の発掘調査成果」
- 3、2012 年 10 月 17 日 橘 泉「出雲地域の考古学」
柳沢菜々「青木遺跡」
- 4、2012 年 11 月 14 日 今井貴之「日唐喪葬令の比較研究」
- 5、2012 年 12 月 1 日 「飛鳥京跡苑池遺構」発掘現場見学（明日香村）
- 6、2012 年 12 月 12 日 橘 泉「飛鳥京跡苑池遺構の発掘調査成果について」
- 7、2013 年 2 月 13 日 菅生薫「長岡宮出土瓦の研究」

《特別研究会》 2013 年 3 月 6 日、大阪大学文学研究科大会議室

藤岡穰「野中寺弥勒菩薩像調査報告」

奥村茂樹「東大寺山堺四至図の基礎的研究—絵図の南半部分を中心に—」

吉川真司「10 世紀の地方寺院」